

## ジャカルタ懐旧旅行

広沢 勉

私ども夫婦は、今年 2014 年に金婚式を迎えます。これを記念して、その昔、一時期を過ごしたジャカルタ旅行をすることにしました。家内と娘 2 人のジャカルタ生活は、1975 年の 4 月から 79 年の 8 月までの 4 年半ほどでした。家内は、ジャカルタよりはヨーロッパに行きたいと言っていたのですが、ジャカルタ行きのお話を聞いた長女が、自分も一緒に行くということで、実現する運びとなりました。小 1 の女児の面倒見に忙しい次女と違い、長女は子供がおらず、旦那も 1 週間や 10 日の一人暮らしを苦にしないので、旅行プランはすべて長女まかせとなりました。そういうことで、3 月 5 日に成田を発ち、ジャカルタに 4 泊の後、シンガポールで 3 泊して、13 日早朝羽田着のスケジュールで出掛けて来ました。

私は、1962 年 1 月から 1992 年 3 月までの 30 年間に 4 回通算 12 年ジャカルタに在勤しました。実際に運転手よりもジャカルタの地理に通じていたし、ジャカルタ・ジャパン・クラブに「蘭印の地の散策」などという小文を著したこともありました。ジャカルタの地理・歴史については、かなりのものと自認していたのですが、本誌主幹の西見恭平さんのブログで、オランダ人の墓地であるプラサスティ墓地公園やメンテンプロのオランダ兵英霊墓地などがあることを初めて知りました。4 年前の 2010 年 5 月、私は 15 年ぶりにジャカルタを訪ねて、西見さんに、上記の墓地や独立記念館、コタのファタヒラー広場などを案内してもらいました。その後、西見さんのブログを見直していて、悔やんだのが、オバマ大統領が通っていた小学校と住んでいた家の見学をしなかったことです。

井口正俊著「ジャワ探求」によると、コタのカリブサール河口のパッサル・イカンにある海洋博物館は、東インド会社時代の倉庫であり、市場の入り口にある物見櫓にも上れるとあります。パッサル・イカンには、これまで、数え切れないほど出向いているのですが、海洋博物館に入ったことがなく、また、その頃の哨楼は一般には開放されていませんでした。「ジャワ探求」を読んで、海洋博物館と哨楼に大いに興味をそそられました。ちなみに、私は、上述の「蘭印の地の散策」で、パッサル・イカンについて、次のように記しています。“インドネシア語でパッサル・イカンとは魚市場のことである。コタのはずれにパッサル・イカンと呼ばれる一角がある。ジャカルタ湾に注ぐ汚い河の河岸に雑貨を売る商店が連なっている。別に新しい魚市場が出来たので、今は魚を売っておらず、名前だけのパッサル・イカンである。市場の入り口には見張り台のような哨楼があり、年代物の艀装砲が置いてある。銃眼のついた古い大きな兵舎のような建物は海洋博物館になっている。この小さな漁港のような港が、16 世紀の頃、スダ・クラバ港と呼ばれインドネシア史にその名を印した。”

ジャカルタ行きが決まると、私は、本誌編集長の兼松リサさんに面談を申し入れ、3 月 6 日会社を訪問することになりました。主幹の西見さんとは懇意にしているのですが、リサさんとは、メール交換するだけで、お会いしたことがなかったからです。リサさんは、一時帰国中の西見さんの車をホテルに回してくれるとのことで、ご厚意に甘えて、会社に

行く前に、オバマ大統領所縁の学校と家を見学させてもらう手はずを整えました。ジャカルタ巡りの目的地として、私は、オバマ大統領所縁の学校と家それにパッサル・イカンの見学を最優先に位置づけていました。それと、かつて私が手がけたタンジョンプリオクのプルタミナ LPG 基地ものぞけたらと内心思っていました。家内からは、特別な希望はなく、おまかせのスタンスでしたが、長女は、クバヨラン・バルの旧宅や通っていた日本人学校を是非訪ねたいとのこと。

かくして、3月5日夕刻ジャカルタ空港に到着しました。1962年1月の赴任から今日まで52年間に数え切れないほど、ジャカルタ空港に降り立ちましたが、今回ほど入国審査(イミグレ)に時間がかかったのは初めてです。私や家族に対する審査に時間がかかったのではなく、どこの国かわかりませんが、就労目的らしい若者グループに対する審査が長引きました。おまけに外国人受付の担当官は二人だけで、入国者は長蛇の列を作って順番待ちです。私の番にくると、担当官が何かチェックしている様子、のぞいてみると、なんと、どこからか回ってきた数冊の日本人パスポートに入国印を押しているのです。ようやく、イミグレを通過して、いよいよ悪名高い税関だと構えて行くと、意外やノー・チェックでパスしました。それでも、タクシーに乗るまで、2時間近くかかりました。

入国翌日、いよいよ懐かしのジャカルタ巡りです。まずは、オバマ大統領が6歳から10歳まで通っていたメンテン第1小学校と住んでいた家を見て来ました。西見さんのブログによると、オバマの父はケニア人、母は白人で、留学先のハワイ大学で知り合って結婚したが、オバマが3歳の時離婚した母は、ハワイ大学に留学に来ていたインドネシア人ストロと再婚し、インドネシアに移住したとのこと。

スティアブディのホテルからメンテンを一回りして、スディルマンにあるリサさんの会社までの道は、さほどでなかったのですが、リサさんとの面談・会食の後に出向いたコタは大渋滞でした。予定では、パッサル・イカンからアンチョールを回ってタンジョンプリオクまで行くつもりでしたが、運転手に行き先をスダ・クラパと告げたのが失敗でした。カリブサールに架かるオランダ風の吊り橋を見てから、向かった所は、パッサル・イカンに隣接のスダ・クラパ港でした。戻って右折しようとしたところ、大渋滞で、車がまったく動きません。左折してアンチョールへと向かったのですが、これも渋滞のため、対岸のコタ駅方向に道を変えました。途中、ファタヒラー広場のカフェ・バタバアで一休みしましたが、歴史博物館には入りませんでした。コタからタムリン通りに戻ったところで、サリナ・デパートに寄りました。家内も長女も記憶を呼び戻し、特にスーパーのHEROには、感慨を新たにしました。

翌日7日は、クバヨラン・バルにある旧宅2ヶ所と独身寮を見に行きました。独身寮には、52年前の初赴任の時も、1988年から1992年までの最後のお勤めの時にも、お世話になりました。現在も独身寮として使われているとのこと。1979年8月、家族ともども帰国したのを最後に、旧宅を訪ねることはなかったのですが、わずかな記憶を頼りに行き着きました。両方とも昔のまま、細かな点は、長女の方がよく覚えていました。ブロック M

のパパイヤ・フレッシュギャラリーの陳列品を見て、日本のスーパと変わらないなと思いました。グランド・インドネシアで昼食をとった後、初めて、MONAS に上りました。家内や娘たちの時代は、MONAS は公開されていませんでした。上から見下ろすと、大統領官邸も含めてジャカルタ中心部が広がっていました。MONAS を降りてから、バンテン広場に出向きボロブドゥル・ホテルで一休みし、夜はブロック M で食事をとりました。なお、グランド・インドネシアから道路を挟んだ向かいのホテルは、私たちの時代はプレジデント・ホテルで、その後、ホテル・ニッコーになったことは承知していましたが、今は Pullman という表示になっていました。その頃、私は、隣のヌサンタラ・ビルに通っていました。

上から見下ろす光景といえば、パッサル・イカンの哨楼から一望したスダ・クラパの様子も印象深く感じました。これまでは、車で出向き、地図で位置を確かめるだけのスダ・クラパ周辺が手にとるように見えたのです。パッサル・イカンには、最初の日、渋滞のため行けなかったのですが、ジャカルタ巡り最後の 8 日にやっと望みが叶い、哨楼に登り、海洋博物館を見ることができたのです。兵舎の跡と思っていた海洋博物館は、内部の様子から、「ジャワ探求」が述べている通り、倉庫の跡ですね。

この 8 日の午前には、長女の注文の日本人学校を訪ねています。西見さんの運転手によると、現在の日本人学校は、ビンタロですが、長女が小学校 3 年から中学校 1 年まで通っていた日本人学校の校舎は、今も残っているということなので、まず旧校舎を訪ねました。私は、場所も校舎もほとんど記憶にないのですが、長女は、校舎の外観を見て、懐かしそうでした。現在の日本人学校は、外観も内部もなかなかのものです。当日は土曜日でしたが、先生方は出ておられていて、長女は、“小学校の卒業生です。”と挨拶していました。構内で、たまたま見かけた「ジャカルタ日本人学校」の 3 枚の表札に目を惹かれました。一番新しいものには貼り紙がついていませんが、「日本国大使館付属日本人学校 ジャカルタ日本人学校」という表札の下の貼り紙には「テベット校舎 昭和四十四(一九六九)年より昭和四十七(一九七二)年まで」とあり、もう一つの「ジャカルタ日本人学校」の貼り紙は「パサーリング校舎 昭和四十七(一九七二)年より平成七(一九九五)年まで」とあります。テベット校舎については、まったく知りませんでした。大使館付属として日本人学校が発足したのは 1969 年ということに認識を新たにしました。私が、初めてインドネシアに赴任した 1962 年頃、商社の駐在員のほとんどは単身赴任でした。家族帯同の大使館職員の子弟はアメリカン・スクールに通っていたと思います。それが、1967 年 1 月に制定・公布された外資法により、日本の製造業のインドネシア進出が始まり、日本人学校の設置が必要になったということでしょう。

パッサル・イカンからアンチョールを一回りして行ったタンジョンプリオクは、大型車両がひしめいて身動きがとれない大渋滞でした。戻りの車線に折り返すのにも一苦勞でした。家内と娘から激しいコンプレインを受けましたが、車列の隙間からのぞく LPG タンクの写真をなんとか撮れたので、それなりに満足しました。あわただしいジャカルタ懐旧旅行を終えて、帰途立ち寄ったシンガポールについては、次の機会にレポートいたします。(完)